

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は109円台を固めて一段高か

[5月17日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月10日～5月14日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.57	109.79(13)	108.35(11)	109.47	+0.87
ユーロ・ドル	1.2148	1.2182(11)	1.2052(13)	1.2100	-0.0066
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	28,084.47	-1273.35	日本10年債利回り	0.080	-0.008
ダウ平均株価	34,021.45	-756.31	米10年債利回り	1.657	+0.080
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 17日 英5月ライトムーブ住宅価格
中国4月鉱工業生産指数、中国4月小売売上高、中国4月鉱工業生産指数
スイス4月生産者・輸入価格
米5月NY連銀製造業景気指数
米3月対米証券投資
- 18日 日本第1四半期国内総生産(GDP)1次速報
豪中銀(RBA)理事会議事録
英4月雇用統計
ユーロ圏3月貿易収支
ユーロ圏第1四半期域内総生産(GDP)改定値
米4月住宅着工・許可件数
- 19日 NZ第1四半期生産者物価指数
日本3月鉱工業生産指数確報値
英4月消費者物価指数、英4月生産者物価指数、英4月小売物価指数
ユーロ圏4月消費者物価指数確報値
カナダ4月消費者物価指数
米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録(4月27～28日分)
- 20日 日本4月貿易収支、日本3月機械受注高
豪4月雇用統計
独4月生産者物価指数
ユーロ圏3月経常収支
米新規失業保険申請件数、米5月フィラデルフィア連銀景況指数
米4月景気先行指数
- 21日 日本4月消費者物価指数
豪4月小売売上高
英4月小売売上高
独4月製造業PMI速報値、独4月非製造業PMI速報値
ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月非製造業PMI速報値
英4月製造業PMI速報値、英4月非製造業PMI速報値
カナダ3月小売売上高
米4月中古住宅販売件数

【前回のレビュー】米経済指標は予想から下振れするケースはあるものの、総じて堅調で米国経済が回復に向けて動いていることを示している。ただ、米長期金利は抑えられており、ドル円が大きく上昇する地合いではない。一方で、ドル円は底堅い動きが継続しており、109円台を中心に堅調な動きが続くとした。

【米10年債利回りが一時1.7%前後まで上昇】

7日発表の4月の米雇用統計では非農業部門雇用者数は市場予想の前月比100万人増に対して、26.6万人増にとどまり、予想を大幅に下回った。景気回復は道半ばで、量的緩和の縮小（テーパリング）観測が後退した。米長期金利が低下するとともにドル売り円買いの動きとなり、109円台前半から108.34近辺まで急落した。その後は下げ渋りを見せたものの、おおむね108円台での推移が続いた。

12日に発表された4月の米消費者物価指数は前月比が+0.8%（予想+0.2%、前回+0.6%）、前年比が+4.2%（予想+3.6%、前回+2.6%）と予想や前回を大きく上回った。コアは前年比+0.9%（予想+0.3%、前回+0.3%）、前年比+3.0%（予想+2.3%、前回+1.6%）となり、こちらも予想や前回を大きく上回った。前年比+4.2%の上昇は2008年9月以来の12年半ぶりの伸びとなった。

米消費者物価指数の予想以上の大幅な上昇を背景に米10年物国債利回りは1.7%に迫る水準まで上昇した。インフレ懸念の高まりから米国株はNYダウが681ドル安（-1.99%）、ナスダックは-2.67%と大幅安となった。ハイテク株中心のナスダックの下げが目立った。通貨はドル買いの動きとなり、ドル円は米消費者物価指数の発表前は108.60台だったものの、発表後にドル買い円売りが進んで109.70近辺まで上昇した。

米連邦準備制度理事会（FRB）のクラリダ副議長は12日の講演で、「米消費者物価指数（CPI）の強い結果は驚き、自身の予想を上回った」「FEDは物価圧力が一時的ではないと判断されれば行動する用意がある」「最近の経済指標には多くのノイズが含まれており、さらなる情報が必要」などと述べた。基本的には物価上昇は一時的なものだが、必要に応じて行動に移す姿勢を示している。

13日の4月の米生産者物価指数は、前月比+0.6%（予想+0.3%、前回+1.0%）、前年比+6.2%（予想+5.8%、前回+4.2%）、コアは前月比+0.7%（予想+0.4%、前回+0.7%）、前年比+4.1%（予想+3.8%、前回+3.1%）と前日の消費者物価指数同様に予想を上回った。ただ、すでにある程度織り込まれていたせいも、市場への影響は限定的だった。

米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長をはじめとして、FRBの当局者は今のところ「量的緩和の縮小（テーパリング）の議論はまだ先」との姿勢を崩していない。ただ、物価上昇圧力の高まりが継続するようだと、米長期金利が一段と上昇して、テーパリング観測につながりやすくなる。

米10年債利回りは一時1.7%前後まで上昇したものの、その後は落ち着きを見せている。米経済指標や物価動向次第では、再び上昇に転じる可能性がある。ワクチン接種の拡大で、経済活動が徐々に正常化に向けて動くと、経済指標の改善や物価の上昇につながる可能性が高まりそうだ。そうした中、ドル円は底堅く推移して、109円台を固めて再び110円に乗せる可能性が出てくる。ドル円の目先の予想レンジは、108.50～110.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、17日に米5月NY連銀製造業景気指数、米3月対米証券投資、18日に日本第1四半期国内総生産（GDP）1次速報、米4月住宅着工・許可件数、19日に日本3月鉱工業生産指数確報値、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録（4月27～28日分）、20日に日本4月貿易収支、日本3月機械受注高、米新規失業保険申請件数、米5月フィラデルフィア連銀景況指数、米4月景気先行指数、21日に日本4月消費者物価指数、米4月中古住宅販売件数などがある。

【ユーロドルは堅調な推移か】

ユーロドルは7日の4月の米雇用統計の下振れを受けてドル売りの動きとなって、1.2170台まで上昇した。1.21台での振幅が続いた後、12日の米消費者物価指数の強い結果を受けて、ドル買いの動きから1.2066近辺まで下落した。その後

は売り一服となり、下げ渋りの動きを見せている。

欧州でもワクチン接種の拡大により、経済活動の回復が一段と進展するとみられ、

1. 20 近辺では下値を支えられて、堅調な動きを見せることとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1. 1975～1. 2200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、17日に英5月ライトムーブ住宅価格、中国4月鉱工業生産指数、中国4月小売売上高、中国4月鉱工業生産指数、スイス4月生産者・輸入価格、18日に豪中銀（RBA）理事会議事録、英4月雇用統計、ユーロ圏3月貿易収支、ユーロ圏第1四半期域内総生産（GDP）改定値、19日にNZ第1四半期生産者物価指数、英4月消費者物価指数、英4月生産者物価指数、英4月小売物価指数、ユーロ圏4月消費者物価指数確報値、カナダ4月消費者物価指数、20日に豪4月雇用統計、独4月生産者物価指数、ユーロ圏3月経常収支、21日に豪4月小売売上高、英4月小売売上高、独4月製造業PMI速報値、独4月非製造業PMI速報値、ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月非製造業PMI速報値、英4月製造業PMI速報値、英4月非製造業PMI速報値、カナダ3月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。